

一仏兩祖の教えを今に伝える

平成11年12月24日第三種郵便物認可(毎年1.3.6.9月の1日発行)平成30年3月1日発行 第144号

曹洞禅 グラフ

SOZOZEN GRAPHICS

2018 春号 No.144

対談

涅槃図の 楽しみ

高橋秀榮×平川恒太

宗教と科学

正木晃

平成二八年、アインシュタイン研究の第一人者として知られる金子努・大阪府立大学名誉教授の呼びかけで、科学の振興や普及をはかる日本科学協会の中に、科学隣接領域研究会が発足しました。主要メンバーは、東京大学で科学史を専攻する先生方です。そのほか、同じ東京大学で倫理学を専攻する先生もいれば、慶應義塾大学のロボット工学の先生もいるというぐあいに、文字どおり多士済々です。この研究会では、宗教や芸術も、科学と「隣接」する領域とみなされているので、私も金子先生からの依頼を受け、参加しています。

研究会の目的の一つは、科学の暴走を未然に防ぐことです。科学の暴走の具体的な例をあげましょう。捏造です。業績を上げたい。認められて、高い地位につきたい。そんな思いから、虚偽の成果を発表してしまうのです。つい先年も、日本最高の科学研究機関にほかならない理化学研究所の女性研究者が、とんでもない捏造事件を引き起こしています。

こうした捏造事件の背景には、高知っているといるというのは、単なる思い込みかもしれません。実際には、一部のスポーツ選手やアスリートと同様に、科学者も、特定の分野や一芸には秀でていても、人格的にははなはだ未熟な例がけっこう多いのです。自分が専門としている分野のほかは、一般人よりも知識がなかったりします。ごくふつうの人でもできる善悪判断すらおぼつかないことも、十分に考えられます。

この傾向は、科学でもスポーツでも、子どものころから特定の目的だけをめざしてきて、しかもそれがうまくいってしまった人に、よく見られるようです。だから、聖書を読んだこともないままに、大人になってしまった人がいても不思議ではありません。

そして、欧米で聖書が効くなら、日本では仏典を読ませたら効くはずですよ。第一候補は、中村元先生がわかりやすい現代日本語に翻訳された原始仏典あたりでしょうか。以前、ご紹介した鈴木正三すずき しょうぞうの『驢鞍橋ろあんきょう』も、心に染みる話が多々あるので、きくと効くと思います。



挿絵 / 長谷川葉月

学歴揃いにもかかわらず、倫理観に欠ける科学者が少なからずいる事実が指摘されています。

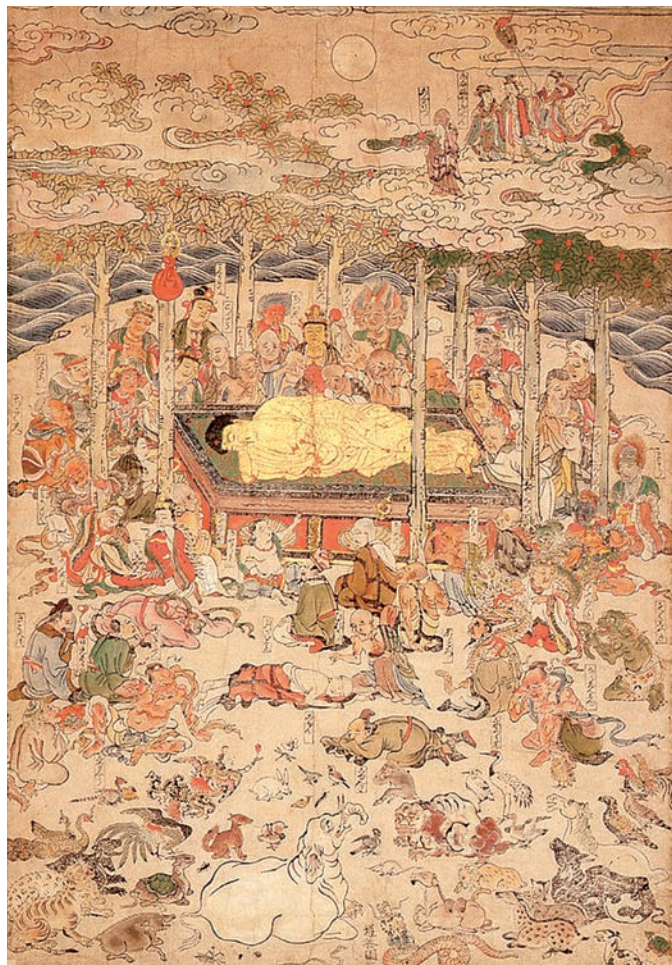
じつは、この種の捏造や科学論文の不正事件は、世界のどこでも起こっています。一説には、発表される科学論文の八〇%くらいに、再現性がないそうです。科学は、同じ条件であれば、同じ現象が再現されることが正しさの根拠です。したがって、再現性がないということは、その論文がでたためということになります。金銭面も含め、科学者が不正行為をおこなって検挙される割合は、一般人よりも高いというデータさえあります。

さて、対策です。どうすれば、科学者の倫理観を高められるか。欧米で科学の研究者に、聖書を読ませたら、不正行為の発生率があきらかに下がったという報告があります。

こんな古典的で簡単なことが、なぜ、効果を上げたのか。私たちの常識では、理解に苦しみます。しかし、科学者は頭が良くて、なんでも良く

まさき・あきら
宗教学者。一九五三年神奈川県生まれ。国際日本文化研究センター客員助教授を経て、慶應義塾大学講師。『再興！日本仏教』など多数の著書がある。

対談 涅槃図の楽しみ



道益画 江戸時代中期 神奈川県立金沢文庫所蔵

高橋秀榮

平川恒太

一番難しかったのは
お釈迦さまの表情です

平川 ぼくはちょうど一年前の春号（曹洞禅グラフ「一四〇号」）の表紙に涅槃図を描きましたが、まず間違いがあつたら困りますから、いろいろ文献など読みあさりながら、その図に登場する人物とか動物とか、そういうものを調べて描いていったわけです。けれども、涅槃図といひましてもけっこう種類があつて、ものによって違つたところがあります。例えば、雲の上の侍女の数や動物の種類が違つたり、沙羅双樹の木の位置が違つたりということですね。それで、どうやって描いたらいい

王・大臣・羅漢・菩薩がお釈迦さまの周りを取り囲んで嘆き悲しんでいるという絵ですが、鎌倉時代になると、さらに大勢の人々と動物がお釈迦さまの周りを取り囲むという構図になつて、お釈迦さまをしのぶということの形を生み出したと言つてもいいと思いますね。ちょうど浄土宗の阿弥陀さんへの信仰が高まつた時代ですから、阿弥陀さんがお迎えに来てくれるという、そういう特別な信仰のもとに涅槃図も描かれている。来迎図の一部を取り込んだと言いますか、それがもしかしたら雲の上に反映されているのではないか、そう思います。

江戸時代には木版画でも表されるようになりまして、絵師たちは鎌倉時代の作品を参考にしながら下絵を描いたと思いますが、一般庶民にとつては安い料金で買うことができ、楽しみながらお釈迦さまの周りにいる人物の勉強ができた。そういうことでたくさんの方が作品が生み出されたのではないかなというふうに私は感じます。

平川 ぼくが描こうとしたときに、幾つかのきまりとかは学んだ上で、お釈迦さまの表現というのが一番難しく思いました。どういう表情にしたらい

のか、ずいぶん悩みました。

高橋 仏教のお寺では、毎年二月十五日、お釈迦さまの命日にこういう涅槃図を本堂の右わきの室内に掛けて、一般の信者さんがお参りすると、間近にお釈迦さまの死の場面を拝見できるという、それが年中行事になつていたんですね。涅槃図というのは涅槃経というお経に基いて描かれています。お釈迦さまは八十歳で、沙羅双樹の林の間で亡くなられた、そういう記述を踏まえて、日本では平安時代の応徳三年という年号が書かれた涅槃図が高野山に残つていて、これが一番古いもので国宝になつています。

それはお釈迦さまのお弟子さんをはじめ、国

いか、いろいろ考えた末に、なるべく安らかな顔というか、本当に眠つているような顔にしたいなと。

高橋 そうですね、平川さんの絵を拝見すると、八十歳のお釈迦さまのはずが四、五十代の顔立ちで、安らかに昼寝されているような感じをうけます。そこは写実的でない。それはそれでいいので、もともと涅槃というのはお釈迦さまのお亡くなりになつたこと、ニルヴァーナといひまして、それは安らかな境地に達したという意味です。それがゆえに、お釈迦さまは安らかなお顔立ちで宝台の上に横たわつていらつしやる。

一方、それを取り巻くお弟子さんたちは、安らかにお亡くなりになつていることに一安心はしながらも、しかしやはりもう二度と会えない、二度とお話を聞けないという悲しみがいや増しに増して、みんな気が動転するほどに嘆き悲しむ。平川さんの絵でも、周りの人たちがそういう表情をたえていて、そういう意味で、安らかなお釈迦さまのお顔といい、私は大変いい作品だと感じた次第です。

気絶した阿難と
真っ白になつた沙羅双樹と

高橋 鎌倉時代には、あちこちのお寺で涅槃図が必要とされた。というのは二月十五日にお釈迦さまを追慕する、二月は涅槃の月というイメージがあつたようで、それがためにお寺へ人が集まつたわけです。江戸時代に描かれた涅槃図を見ますと、



高橋秀榮（たかはし・しゅうえい）
昭和十七年北海道生まれ、駒澤大学仏教学部卒業、同大学院博士課程修了、元神奈川県立金沢文庫長。



平川恒太画

縦長の絵がほとんどで、中心に宝台が置かれ、その上に安らかなお釈迦さまが横たわっている。お釈迦さまのお体は周りのものと比べて、スポットライトを浴びているかのように、ひときわ鮮やかに、全身が黄金色になっています。

平川 ぼくも実は金のパウダーみたいなものを顔料に混ぜて、このお釈迦さまの周辺が光るように工夫しました。印刷物では駄目ですが、原画では光の向きでちよつと輝いているように見える、結構きらきら光っているのが分かります。今のお話で、ぼくも初めは縦長で描いてみたくんですけど、表紙のサイズが正方形ですから途中でカットして、そのためバランス感を取るのが難しくなりました。こんなふうに四角に描かれた涅槃図というのは、ご覧になることはありませんか。

高橋 少しありますね。縦長、横長、正方形と三つ

この袋にはお釈迦さまの食器が入っていて、一緒に描かれている錫杖とともに、最晩年までお釈迦さまは質素な生活だったということを示しています。それが枝に掛けられて、ここで遊行生活に終止符を打ちましたよと、そういう意味なんですね。平川 ぼくは参考にしたものが結構赤いものが多いので、それでたまたまそれを赤い袋にしたと思います。

高橋 そうですか。それから涅槃図の見どころは、グリーン色の沙羅双樹が、半分の四本がみんな真っ白に変わっちゃう、一瞬にして。それこそ白い鶴の羽のように真っ白になったという。『栄華物語』に、鶴の林ということを表題とした文章が残されています。それから、涅槃講式というものを日本で最初に編み出したのは、京都の高山寺の明恵というお坊さんですが、彼の涅槃講式の文章の中にも、「沙羅の木が白に変じてなお白鶴のごとし」と書かれています。

涅槃図とは釈迦を中心とした 曼荼羅図です

高橋 それから、鎌倉時代に京都・東福寺の明兆という画僧が描いた涅槃図には猫がいることで有名です。金沢文庫の隣の称名寺というお寺の涅槃図にも猫が描かれていて、涅槃図というところまで注目するのが、猫がいるかないかということ。夏目漱石に「里の子の猫加へけり涅槃像」という句がありますが、漱石が見た涅槃図にも猫が描かれていたわけですね。ただ、涅槃図という

の形がありますが、縦長のものが圧倒的に多くて、それはたくさん動物を描くことができるということで、そうだったと思います。三分の一は動物ですね。動物が描かれてない涅槃図となると、概ね四角で、それから天上界の摩耶夫人もカットすると真四角で済むわけです。平川さんが参考になさった涅槃図というのは。

平川 四点ほどあります。四つの涅槃図から自分の解釈に合うもの、あるいは自分の造形美に合うものとかを組み合わせながら描きました。大きいつくりといえますか、重要な要素というのは共通しておりますから、取りあえず一番重要なものだけは描き入れておこうと思ったわけです。例えば、阿修羅とか仁王とか、そういったものの位置とか意味とかですね。それと、倒れて泣いているお弟子さん。

高橋 これは阿難尊者といまして、釈迦族のお釈迦さまの親類に当たる人です。彼はお釈迦さまの晩年の二十五年間、一緒に遊行していて、ここで亡くなったときにはあまりの悲しさに気絶してしまった。それでお釈迦さまと反対向きに倒れているわけですね。左から二番目の沙羅双樹の木の上に赤い袋が描かれています。これは私、子どもときに、雲の上のお釈迦さまのお母さんが、お釈迦さまが危篤と知らされて天上から降りてくる、その途中で、これを飲んだら、もしかしたら病気が治るかもしれないと、薬入りの袋を投げた、それが木の枝に引つ掛かっているのだという、そういう話を聞いたことがあります。実際には、

鼠は描かれているけれど、猫はいないというのが多いんですけれど、そういう見どころも一つ楽しみにあります。お経には「五十二類」と書かれています、私も勘定しましたけど、四十ちよつとしか見つけられませんでした。

平川 その五十二類の動物というのは、何かということも書かれているんですか。

高橋 そうです。『大般涅槃經』というお経の中に書かれています。その一つ一つの確認を取っておられません。珍しい動物から現実で自分の目で確かめられるものまで、小さいもの、大きいもの、いろいろ取り交ぜてお釈迦さまの死をみんな共々に悲しむ。そういう想定で描かれているわけですね。平川 江戸の有名な画家、伊藤若冲は涅槃図の登場人物をすべて野菜に置き換えて描いています、あれはいいですね。

高橋 いいですね、私も好きな涅槃図です。平川 一見、ふざけたようにも見えながら、すべてのものに仏性が宿っているという感覚といえますか。高橋 いいアイデアですね。普段、私たちが食生活の中でいろいろと口にするものを並べて、供養しているという感じですね。それから申し遅



平川恒太 (ひらかわ・こうた)
1987年高知県生まれ、2011年多摩美術大学卒業、2013年東京藝術大学大学院を修了。「アートアワードトーキョー丸の内2013」にて三菱地所賞(2013)、FACE 2013 損保ジャパン美術賞にて審査員特別賞(2013)などを受賞する。曹洞禅グラフの表紙画作者。

沐浴身體 當願衆生 身心無垢 内外皎潔

毎日書道 高橋秀榮

作品集

ご家族のみなさまの応募をお待ちしております

お手本を参考に、作品を半紙（横向、お名前は左側）に書いてご応募ください。（無料）ご応募の中から優秀な作品を選び、年に1度誌上で発表し、記念品を贈呈します。住所、氏名、電話番号を明記して作品をどしどしお寄せください。

送り先 〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5 仏教企画 電話042-703-8641

締切 平成30年5月末

沐浴身體 當願衆生 身心無垢 内外皎潔

今回のお手本の文句は「入浴之偈」です。身心を清める入浴に際し、禅寺の浴室に安置されている跋陀婆羅尊者像に心こめてお唱えする四句の偈です。

高橋秀榮×平川恒太の新作『涅槃図の絵解き』を10名の方にプレゼントいたします。仏教企画(P.9送り先)まで、お名前・ご住所・電話番号・プレゼント名を明記のうえハガキでご応募ください。

平成30年5月末必着



曹洞禅グラフ142秋号プレゼント『吉岡博道師の書』は次の方が当選されました。

- 宮城県/菊地隆男様 千葉県/斎藤有一郎様
- 静岡県/深田静悦様 広島県/荒谷和様
- 山口県/谷林五月様

読者からの お便り 大道英隆様

それはずっと昔の幼い追憶。田舎のわが家は古いお寺。霊気が漂うわが家は山門のすぐ横にあった。私の少年時代、小坊主たちにとってお寺は格好の遊び場だった。死人、坊主、遺族と配役を決めて、見よう見まねで葬式をして遊んでいた。私は死人役で、たまたま予備で取ってあった棺桶に入った。どうしたわけかそこで寝込んで、私ひとりが骨堂の棺桶に数時間いたのだった。異様な静けさといつもながらの線香のにおい。あの世かなと一瞬錯覚してしまうほどだった。周りを見渡すと軍服姿の写真が目に飛び込んできた。微笑んでいる。無意識に写真の近くにいってよくよく眺めはしたが、恐怖感が先にたち経を唱えた。骨壺の中からカサカサと音がした。喜んでくれたのかな。はじめて死者に親しみを覚えた瞬間だった。死と向き合うとはこのことをいうのかと深く感じた幼い自分がそこにいた。

れましたが、鎌倉時代には涅槃図のことを「涅槃会の曼荼羅」とも称していたようです。金沢文庫の仏教の書物の中にそれが出てきます。確かに言われてみれば、お釈迦さまが真ん中に横たわっていて、その周りをさまざまな人物、動植物が取り囲んでいる、これはまさに曼荼羅形式です。そういう意味でも、これから仏教を勉強する人にとって、涅槃図は仏教を学ぶいい教材になると思います。また最近、博物館や美術館でも涅槃図が展示される機会が多くなりましたので、一般の人々にとっても、親しみを持てる仏画の一枚ということになるでしょう。



涅槃図(道益画・部分) 神奈川県立金沢文庫所蔵

それから、この涅槃図の意味するところは、いわゆる諸行無常ということの一言に尽きるのでないでしょうか。生きとし生ける者はお釈迦さまと同様、必ず亡くなっていかなくちゃいけない。やはり金沢文庫の資料に、「釈尊最後の涅槃は諸行無常を示しおわし」という文章がある。そういう意味で、涅槃図はお釈迦さまをモデルにした仏画ですが、語り伝えたいことは諸行無常ということ、この世に存在するありとあらゆるものは、すべてもろくもはかなく滅んでいくものだと、そういうことを示している絵だというわけです。

松本零士(まつもと せいじ)
福岡県久留米市で1938
年1月25日に生れる。宝塚
大学教授、京都産業大学客
員教授、デジタルハリウッド
大学特任教授を歴任。漫画
家の牧美也子と24歳で結婚。
代表作『銀河鉄道999』な
ど。SF漫画作家として知
られるが、少女漫画、戦争
もの、動物ものなど様々な
ジャンルの漫画を描いている。
アニメ製作にも積極的に関
わり、1970年代半ばか
ら1980年代にかけては
松本アニメブームを巻き起
こした。

戦後、 漫画文化が 開花した頃

聞き手 西館好子

デビュー作のこと、
糸川先生のこと

西館 先生のデビュー作は一九五四年の「蜜
蜂の冒険」ですね。

松本 ええ、そうです。十五才、高校一年の
時に、『漫画少年』という雑誌が『新入王』募
集をスタートさせ、中学校の方の校門前の郵
便局があつて、中間考査の当日だったのです
が、それまでに描き終えて、高校へ行く朝、
そのポストから送ったのが生涯の運命の縮
図でありました。『大宇宙の悠に祈る』とつ
ぶやいて送ったのが『新入王』の第一位に入

選したのです。

発表、発刊されたのも正確には一九五三年
の十二月でした。新年号は前年十一月に発売、
書店に並びました。

なぜ『蜜蜂の冒険』を描いたかという点、
前回お話しした『くもとちゅーりっぷ』の影響
と、子供の時に虫の世界で暴れ回り、だから
昆虫の生態を熟知していたので、それを描い
たということですが、

ただ、それを見た同級生や友人に言われた
のが、『お前、女を描くのが下手クソだなあ』
とボロクソに突っ込まれました。蜜蜂の女王
が毒グモから少年を助けてくれる場面ですが、

その女王様を描いたら、みんなが、女は下手だなと言う。それで今度は一生懸命頑張って、女性の描き方に挑んだという訳です。やっぱり同級生がそう言ってくれるからこうなる訳です。自身の年齢期は文字通り『思春期』、そうすると自身の好きなムードの絶世の美女に憧れるのは、全くの自然現象ですから、止めようはありませんでした。

ただそのはるか以前、小学生の頃描いた多くの作品『火星悪魔』、『透明人間』、『恐竜時代』、『四次元世界』といったSF的作品があり、それらは四年、五年、六年生の頃、学級文庫用に描いた作品が多く、同級生の美少女をヒロインにしたりしました。私が過ごしていた



から、将来漫画家やアニメ制作を目指す人間には絶対の資材が安く手に入る町だったので。文房具店も多く、また周りの自然風景、海も山も川も美しい場所ですから、そういう意味では未来を目指す夢にとっては、まさにアルカディアアあったわけです。私の住んでいた小倉砂津のボロ長屋の正面には『朝日新聞西部本社』、下関方面には『毎日新聞西部本社』、『北九州新聞社』等

がたくさん存在して、この道を目指す人間には極端に恵まれた地域だったのです。私は『毎日新聞西部本社』の『毎日小学生新聞』に高校時代連載して、一日三百五十円いただし、それを学費として戦闘部隊隊長だった父親が公職追放で路上の闇市

北九州小倉市は映画館が三十館以上、書店も多くあり、占領軍のルツボでありましたから、米軍兵士が持ってきた漫画が読んだら捨てられ、それを拾って売っているお店や、道路上の木箱に並べて売っているおばあちゃんがおられたりと、まさに『アメリカンコミック』のルツボだった場所で、一冊五円から十円、ペン軸が八円から十五円といった時代でした

で、かろうじて生きていた家族の助けも出来たわけです。戦闘隊長だった父の伴としての夢は『工大の機械工学部』へ行く予定でしたが、それも不可能で、高校卒業後新聞社へも行けず、部長以下全員が大阪本社、東京本社への移動となり、私は置き去られた孤独な無名作家となりました。しかしそれが雑誌連載を獲得し、少女雑誌の本誌に連載、別冊付録をした。

等を依頼されるようになり、十八才の終わる頃、早生まれの私は高校卒業後約十か月ぐらいの時、決意を定め、弟に『お前は機械工学部へ行け、俺が行かせる!!』と断言し、母には『俺は二度と帰らん!!』とムゴイ事言い、何もかも質屋に入れ行き切符代のみ持ち画材だけ鞆に入れて小倉駅を旅立ったのです。父は『自分で決めたのか?』と聞いたから『そうだ』と返事をしたら『それならよし、ガンバレよ』と励まして出発を力付けてくれました。自分にとってはまさに運命の旅立ちで



右から仏教企画 藤木隆宣、早稲田大学教授 増山均、あおいそら保育園々長 藤木絵宣、左：画家 平川恒太

『マト』を造る時、SFとしての基準築く原点となったわけで、内部構造まで極めて正確に図面化された設計図全てを手にして、私の夢に向けての出発の原点が産まれていた訳です。東大の赤門や正門はすぐ近くなのでこちらはまだ学生服でしたから、勝手に入りこみ、糸川英夫博士の研究所を充分にウロツキ見学し、研究室内で、糸川先生にとっかかりました。『お前、学校の許可をもらって入ったか?』と聞かれ、『いいえ、知りませんでした』と白状したら先生も笑いだし、研究所、研究室内を存分に見学させてくださり、物体に触れるのも許してくださいました。糸川先生との最後のお別れは、毛利さんの『科学館』で何かのセレモニーがあった時、高い所からのガラスで東京湾の良く見える場所で、二人

だけでお会いできました。糸川先生との最後のお別れとなるとはまだピンときておりませんでしたが、海の方を眺めながら『私は機械工学部』へ行くべく『工科大学』の入学試験にトライしていたのですが、家が貧乏でしたので合格はしていたのですが、弟に俺がいかせてやるからお前が大学に行けと言って弟は『九大機械工学部』の大学院まで出て工学博士にまでなっていて、私のもう一つの夢を果たしてくれました。

『私も行けたら…』と言いかけたら、糸川先生にバーンと背中を叩かれて『何を言うか!!、だから今のあんたが居るのだ』と励まされました。偉大な先生だなと感動いたしました。それが糸川先生とお会いしお話が出来た最後の瞬間で、その数か月後先生はこの世をさらされました。励まされた思い出は忘れられません。

手塚さんのこと、
赤塚さんのこと、石森さんのこと、
藤子不二雄さんのこと

松本 私が上京したその日は護国寺の光文社、講談社でした。護国寺の前の旅館に泊めていただきましたが、そこでいきなり横山光輝氏が私の居た部屋に來られたので驚いたのですが、「何で俺のところへおいでになったのですか?」とお聞きしたら、「松本という奴は

で本人も自覚されていたようです。それから何か月か過ぎた審査日に又お会いした時、入院したことをお聞きしていたので、「病院でお仕事ですか?」とお聞きしたら「もう何もしとらん、なんもしとらん」と静かにおっしゃった。手塚さんと言えばタクシーの中でも漫画を描きご多忙を乗りられる事で有名でしたので、これは一大事だと思い「お大事にお身体大切に…」と言おうとしたけれど、息が詰まって声が出せませんでした。この日、この時が手塚さんとの永遠のお別れでした。

その頃は赤塚不二夫、藤子不二夫、私と生年月日が全く同じ、石ノ森章太郎、ちばてつや氏も仲間ですが、ちょうど戦後の漫画の文化が花開く一瞬だったんですね。

西館 そうですね。黄金期であり、漫画界の代表的な人たちですね。私も赤塚先生とはお仕事一緒にして困ったことばかりでした。

松本 酔っ払うでしょ、すぐにね。何しろ一日中飲んでたたくましい人でしたから。

西館 はい、お健気大賞という、健気な女の子を集めて大賞者を選ぶと、赤塚さんの発意で日比谷公会堂を借りたら、応募者は五人ぐらいしかいない、しかも銀座や赤坂などのきれいだころに来ていただいたりして、審査員が野坂(昭如)さんはじめ漫画家の方々や知り合いの観客ばかり四十人ぐらい。この人

どんな奴なのと思って来た」と言われました。同じ日に下の階にいた『ちばてつや氏』も「今晚部屋に行く」と言われ、待てど暮らせど夜が明けても来なかった。次の日にやって来て、「生まれて初めて酒を飲んだ。便所に行つて小便をしてる時に気絶してしまつた」と言う。女中さんが一物を割箸でつまんで収めたそうです。ちばてつや伝説では有名な話です。そうしたら手塚治虫さんもやって来て、「こんな所に泊まらずに俺の家へ来い、食わしてやるぞ」と言つてくださったので代々木初台の手塚プロに行きました。「これを食え!!」といきなりステーキの乗った大チャージャーンドンブリを目の前に置いてくれて、ステーキと思つて食べたならそれは一枚の大きな板チョコレートだったのです。大チョコレートが一枚載つた『大チョコレートチャーハン』という世界でもまれなごちそうだったので。近年になつて漫画賞の審査日でご一緒に出席していた時の事、手塚さんが審査員のトップだったはずですが、私席の横に来てフラフラどしゃつと座つてしまひまして何か元気がなさそうです。「どうかしましたか?」とお聞きしましたら、「今日病院で診察を受けてきたんだ」とおっしゃつたので「大丈夫でしたか?」とお聞きしたら、「ダメだったよ、胃瘍だったよ」と言われたてぐつたりした様子

と付き合うには相当なエネルギーと狂気がいるなと思ひました。

松本 晩年はもうお医者さんもあきらめたんでしよう、飲んでもいいよと言われたから飲んでるとか、何とか言つていました。どんなことになつたか、私に自然に話してくれて、引き出し開けたら中から女がにらんでいる。一度閉めて、又引き開けたらやはり女がにらんでいるという。それからカーテンがなびいて、部屋の隅に黒い服を着た女が立つて睨んでいると。

西館 それは幻覚ですね。

松本 幻覚です。それが一杯飲むと消えると言つていた。それは亡くなる最後の瞬間までそうでした。そして、ある日突然亡くなつた。でも、みんな仲良しになりましたね。一緒に飯食つたり、奢り合つたり、助け合つたりした。一見乱暴に見えるけど、みんな真面目でしたよ。

(以下次号)



西館好子(にしだて よしこ)
東京・浅草生まれ、劇団こまつ座・みなと座、リブ・フレッシュを設立。2000年「NPO日本子守唄協会」を設立し、女性史の一つともいえる子守唄に取り組んでいる。http://www.komoriuta.jp

仏遺教経解説

8

丸山劫外

まるやま・こうがい
昭和21年群馬県生。早稲田
大学卒業。駒澤大学大学院博
士課程満期退学。昭和57年
得度（浅田大泉老師）。同年立
職（浅田泰徳老師）。平成元年
嗣法（余語翠巖老師）。現在所
沢市吉祥院住職。曹洞宗総合
研究センター特別研究員。

仏遺教経（仏垂般涅槃略説教誠経）

姚秦三蔵法師 鳩摩羅什 訳

原文訓読

汝等比丘、寂靜無為安樂を求めんと欲せば、
当に憍闇を離れて独処閑居すべし。靜処の人は、
帝釈諸天ともに敬重する所なり。是の故に当
に己衆他衆を捨てて、空閑に独処して苦本を滅
せんことを思ふべし。もし衆をねがう者は、則
ち衆悩を受く、譬えば、大樹も衆鳥これに集ま
れば則ち枯折の患あるが如し。世間は縛著して
衆苦に没す、譬えば、老象の泥に溺れて自ら出
ること能わざるが如し。これを遠離となづく。

訳

修行者たちよ、憂い無く、とらわれもなく、悟り
の境地にある安らかな心を求めるならば、まさに心
の内も外も騒がしくなってしまう所を逃れて、独り
静かな所に住むべきである。人々から離れて静かに
住む人は、帝釈天や諸天も尊敬し敬うところである
そうであるから、自分の一族とも他の人々とも関わ

ら、修行者らよ、ひたすらに仏道修行に励むべきで
ある。たとえば、僅かの水も絶え間なく流れ続けられ
やがては石に穴さえも開けるようなものである。も
し、修行者の心が、たびたび怠けおたれば、たと
えば石と木で火をおこそうとしても、まだ熱くなら
ないうちにやめてしまえば、火をおこそうとしても
火を得ることはできないようなものである。修行を
勤め励むこと、これを精進というのである。

解説

一切の縁を切って生きられるか

お釈迦様の「遠離」の教えについては、私の
訳文をよくお読み頂けば、「それができさえす
れば、よいが……」、それができないから苦し
んでいるのだ、と思う方が多いのではないでし
ようか。お釈迦様は、ご自分の仏弟子たちに、
完全な出家者としての生き方を説いてくださっ
ているのですが、現代に生きている私たちにと
っては、不可能に近い教えではな
いかと思います。稀に完全出家を
望まれて、自らの一族とも縁を切
り、世の中との関わりを一切捨て
て、独りで山奥にでも住んで坐禪
修行をなさっている方がいらっし
やるかもしれません。でも多くの
方は、この教えに従うことは難し
いのが現実でしょう。

道元禪師は、『正法眼蔵』「八大



写真提供：森澤章行

りを捨て、人里離れた静かな場所でも独り静かに坐禪
して苦の本を滅ぼそうと思ふべきである。もし多く
の人と一緒にいたいとねがう者は、多くの苦悩を受
けてしまうのである。たとえば、いくら大木であつ
ても多くの鳥が集まってくれば、枯れたり折れたり
してしまう心配があるようなものである。世の中は
相縛られあい、多くの苦の中に沈み込んでいる。た
とえば、老いた象が泥に足をとられてしまい、自力
では抜け出られないようなものである。これを遠離
の教えと名づけるのである。

原文訓読

汝等比丘、若し勤め精進するときは、則ち事
として難きものなし。是の故に汝等、まさに勤
め精進すべし、譬えば、少水も常に流るるとき
はすなわち能く石を穿つが如し。若し行者の心
しばしば懈廢すれば、譬えば火を鑽るに未だ熱
からずして而も息めば、火を得んと欲すと雖も、
火得べきこと難きが如し。これを精進となづく。

訳

修行者たちよ、もしひたすら仏道修行に励むとき、
何事もできないことはないのである。そうであるか

人覚」巻で「樂寂靜（寂靜を樂う）」とお説きにな
っています。「八大人覚」巻は、お釈迦様の最
後の教えである『遺経』を元に、道元禪師が仏
弟子としての大事な教えとして、やはり最後に
お説きになった教えです。

私たちの苦の本は何でしょうか。親子の確執
や、兄弟の争いや、一族の問題で悩み苦しんで
いる方もいるでしょう。一族から遠ざかりさえ
すれば、一族に関わる苦の本からは解放される
ことは当然です。

さらに他人との関わりにおいて、悪口を言わ
れたり、無視されたり、面倒なことに巻き込ま
れたり、自分の考えとは全く別の考えで対立し
たり等々、他との一切の関わりを絶てば、その
ような苦しみはなくなるようになります。

寂靜を願う者は、独り山奥に入つて、坐禪修
行をなさるしかない、と言えましょう。唐の時
代、大梅法常という禪僧は、三十年間独り大梅

山で坐禪修行をなさったそう
ですが、お釈迦様の遠離の教
えにピタリの修行者と言えま
しょう。

しかし、現代生活において、
そのようなことのできる人は、
希有に等しいでしょう。

一方、一切の縁を捨てて生
きる生き方が、果たして人間
としてどうなのでしょう。人

間として生きていく上での多くの苦しみから逃れて、独り超然と生きていくことは、果たしていかなるものでしょう。例えば病気で苦しんでいる親を捨てて、自分は出家者だからと超然としていられるものでしょうか。家族が借金だらけで苦しい生活をしているのに、我関せずと独り山にこもることができるとはどうでしょうか。

もしそれが出家者であるというならば、私にとっては、「遠離」の教えに従うことはなかなか難しいです。それでは、己衆も捨てず、他衆も捨てず、且つ寂靜無為安樂を求めるとはどうしたらよいでしょうか。

問題だらけの只中であっても、独り静かに坐る時間を大事にすることと思っています。一日の内、独り静かになれる時間は、必ずあります。皆さんはいかがお考えですか。寂靜無為の安樂を求めることは仏法です。自らのおかれた場から逃げることもなく、その中で坐りきることを、現代に生きる出家者も在家の仏道修行者も共に修行したいと願っています。寂靜無為の安樂は、他に求めても得られません。また寂靜無為の安樂を得られないことを、周りの環境のせいにすることもありません。必ずや、どのような状況にあっても坐りきる場所に寂靜無為の安樂が現出すると言いたいと思います。

お釈迦様にも、道元禅師様にも反論をかざしているようですが、決してそうではありません。己衆も、他衆も捨てられれば結構とは思っています。前にお書きになっています。別の言葉で言えば、「専一に、怠らず、ひるまず」善法につとめることを精進と言えましょう。

私事を申しますならば、時々は怠っています。が、それでもじわじわと止めることなく、仏道を学び、坐禅をし続けています。それで、出家前の35年前よりは、自分にとって、仏教が面白くなっていると思っています。学ぶことが、修行することが、なんだか楽しくなってきましたと思っています。きつと、仏道に限らず、一筋の道を歩み続けていくと、苦しいとき、厳しいときもあるでしょうが、いつの間にか、その道が楽しくなってくるのではないのでしょうか。



写真提供：森澤章行

仏道の「しゅぎょう」は修行と書きます。それ以外の「しゅぎょう」は修業と書きます。「行」には「仏の教えのごとく実践すること」の

のです。己衆他衆を捨てることを「身の出家」と言います。身の出家が現代ではなかなか叶わないのですが、そこで己衆を己の心の乱れ等のもろもろ、他衆を他によって影響されるもろもろ、と訳せば、これらを捨てることは「心の出家」と言えます。お釈迦様の「遠離」の本来の教えとは、異なりますが、「心の出家」を目標に、寂靜無為の安樂を求めることといたしましょう。

たゆみない精進の楽しみ

「精進」を説明する必要はないでしょうが、あえて言いますならば善なることを精進することです。私の本師はよくおっしゃいましたが、「泥棒業に精進する、とは言わんのじゃ」と。全く当たり前のことです。

「相撲道に精進いたします」と言うお相撲さんもいらつしゃいます。茶道に精進する、華道に精進する、等と言うことはあります。

それで、仏弟子に対して、お釈迦様は「仏道修行に精進しなさい」とおっしゃっていますが、それはこれでもうよい、というキリのない修行、不断の修行、たゆみない修行です。少水でも常に流れるならば、石にさえ穴を開けることができるように、修行し続けなさい、それが精進ということだ、とお説きになられているのです。

道元禅師は「精而不雑（精にして雑ならず）」（精とはまじりけがなく）、「進而不退（進にして退かず）」（進とは退かず）と、『遺経』の精進の教えの意味があります。「業」は「わざ」「職業」などの意味になります。「わざ」は習得することができるとありますが、「実践すること」には終わりがありません。ここが大きな違いです。よって

仏道修行に精進するには終わりがありません。まして、木を擦り合わせて火をおこそうとしていたり、き、長い時間擦り合わせているからといって途中でやめてしまふならば、火をおこすことはできません。

読者の皆さまは今どのようなことを「しゅぎょう」なさっているでしょうか。僧侶の方は、文字通り仏道修行の坐禅三昧と教えの参究にご精進なさっていることと存じます。

職業をお持ちの方は、その道で精進なさり、よりプロになれるように努力をなさっているのではないのでしょうか。お互いにそれぞれの道を歩み続けましょう。

み

なさんは「三毒」という言葉聞いたことがありますが。「貪」「瞋」「癡」がそれにあたります。貪は貪りの心、瞋は怒りの心、癡は愚かな心です。禅(仏教)ではこの三毒を煩惱の根本としています。煩惱とは我欲、妄想、執着など、人の心にまとりつき、迷わせ、惑わせ、掻き乱すものすべてのことです。禅的生き方とは煩惱から離れようとするものですから、突きつめていえば、三毒といかに向き合い、どうそれを削ぎ落とし、乗り越えていくか、ということが究極の課題になるといっています。

しかし、三毒を完全に払拭することはできません。生きていくかぎり、目に見えるもの、見えないものを問わず、欲しいという思いがいっさいなくなるということはありませぬし、さまざまな局面で怒りにとらわれることもあるでしょう。愚かな心も時折顔を覗かせることになります。ですから、それらがふっと湧いたときのように対応するかが大切なのです。貪りも、怒りも、愚かさも、心にとどめなければ「悪さ」はしません。とどめるからそれらにとらわれることになるのです。とどめないためには動くこと、行動すること

です。たとえば、何かを欲しいと思ったとき、「いけない、欲しいという心はなくさなければ……」と考えるだけでは心の在り様は変わりません。それどころか、かえってその思いがとどまってしまい、心が縛られることにもなります。道元禅師はこんなことをおっしゃっています。「この法は、人人の分上にゆたかにそなわれりといえども、いまだ修せざるにはあらわれず、証せざるにはうるることなし」(『弁道話』) この教えは、それぞれの人に

杵野俊明



禅的 生き方の ヒント

4

等しく豊かに備わっているものだが、それをおこないとして実践しなければ、あらわれてくることはないし、会得することもできないのである、といった意味です。

欲しがらない自分でいたい、怒らない自分でいたい、愚かさから離れた自分でいたい、ので

あれば、考えるだけではなく、一歩踏みだすことです。動くこと、行動すること、すなわち、おこないとして実践することで、はじめて心も変わるのです。何かを欲しいと思ったときには、すぐに買ってしまおうのではなく、一定期間のインターバルを置く。これも行動です。その

間に高ぶった気持ちも冷静になりますから、ほんとうになくは困る必要不可欠なものか、あったらいいなという程度のものか、が判断できます。たいがいは後者の判断になるものです。その結果、「今回は買い控えよう」というふうになれば、物欲からひとつ離れたことになり

ませんか。衝動買いしないという行動が心を変えたのです。怒りっぽい自分をなんとかしたいというのであれば、「怒らないでいよう」と思うところが一歩進めて、具体的な行動をとるのです。たとえば、怒りの感情が湧いたら、息をおなかか

ら吐ききり、おなかにまで落とす深い呼吸(丹田呼吸)をするという具合です。

丹田呼吸を数回して呼吸を整えると、心も整ってきますから、怒りの感情も自然におさまっていきます。これは曹洞宗大本山總持寺の貫首をつとめておられ

た板橋興宗禅師の受け売りですが、呼吸を整えた後、何か「呪文」を唱えるとさらに効果的です。

ちなみに、板橋禅師は「ありがとさん、ありがとさん、ありがとさん」と三回唱えらるとおっしゃっています。「呼吸+呪文」



という行動が怒りの心を転じてくれるのです。

「隣の芝生は青い」という言葉があります。ちがいはないのに、他人のものや他人が置かれている状況がよく見える、ということとです。そこで生まれる妬みは

愚かな心の典型かもしれません。妬みの心を抱えたままでしたら、ふくれるばかりとなります。

ここでも行動です。目の前にあるやるべきことをただ一生懸命にやる。何でもいいのです。仕事に取り組んでいるときは仕事に集中する、趣味や遊びをしているなら、精いっぱいそれに没頭する、掃除でも、料理でも……とにかくそのことに全力を傾けるのです。

禅では「それとひとつにな

る」といういい方をしますが、

ひとつになっていると余計なことが心に入り込む隙がなくなります。その時間が充実したものと成って、妬みの感情も消えてしまします。

日常生活のなかには三毒にかまりそうな状況がたくさんあるのだと思います。前にも紹介しましたが、「禅即行動」、動くことが大切です。その心にとどまっていけないで行動してください。

これまで二年間、八回にわたって本誌に連載をさせていただきました。今回がその最終回になります。長い間お読みいただきありがとうございます。心から感謝を申し上げます。



ますの・しゅんみょう

1953年、神奈川県生まれ。建功寺（横浜市鶴見区）住職。多摩美術大学環境デザイン学科教授。住職でありながら庭園デザイナーとしても高い評価を得ている。祇園寺紫雲台庭園『龍門庭』など国内外多数の庭園作品を手がける。『心に美しい庭をつくりなさい。』など著作多数。

2018

平成三十年
 1月1日〜12月31日 東京都中央区日本橋
 1日のみ開催予定です
 4月28日〜7月16日 群馬県安中市字智の森
 ふるさと学習館 歴史博物館
 10月中旬〜11月中旬 神奈川県小田原市郷土文化館
 ※開催に向けて準備を進めています
 松本記念館


生誕四五〇年
風外展

風外 ふうがい

平成一乳、生誕四五〇年を記念する「風外展」を開催。風外生誕の地である安中市に於ける松本川原小田原、そして東京の「三軒茶屋」をめぐり、その生涯の軌跡を辿ります。ゆかりの地をまわって、その生涯の軌跡を辿ります。平成一乳の筆跡を吹かす、風外生誕の地をめぐります。

曹洞宗 禅文化の会
 (旧 禅文化 洞上墨蹟研究会)

禅画 ZEN GA



宗教と科学

正木 晃

2

涅槃図の楽しみ

高橋秀榮・平川恒太

4

毎日書道

高橋秀榮

9

松本零士インタビュー・第2回

松本零士

10

仏遺教経解説8

丸山劫外

16

禅の生き方のヒント4

枅野俊明

20

表紙画 / 平川恒太